

# APEC 首脳会議における習近平演説

田中 修

## はじめに

習近平国家主席は10月7日、APEC 首脳会議で「改革開放を深化させ、素晴らしいアジア・太平洋を共に創りあげよう」と題する演説を行った。本稿では、このうち党 3 中全会の議論に直結する改革開放部分の概要を紹介する。

## 1. 中国経済の見通し

世界経済は依然として深い調整期間にあり、回復の兆しもあるものの、基礎が不安定で、動力が不足しており、速度が不均等という問題に直面している。主要先進国の構造問題は解決にはほど遠く、マクロ経済政策の協調強化の必要性は際立っている。新興市場国の成長率は鈍化し、外部のリスクと試練が増加している。WTO のドーハラウンドは難航し、貿易・投資保護主義は新たな形で現れている。世界経済の全面的な回復と健全な成長の実現は、長期にわたる曲折したプロセスとなろう。

世界経済情勢がもたらす新たな試練に対し、先進国・発展途上国いずれも新たな成長動力を努力して探し求めている。

成長動力はどこから来るのか？私の考えでは、改革・調整・イノベーションの中からしか出て来ない。アジア・太平洋は、ずっと世界経済の成長の重要な牽引力であった。世界経済の回復の動力が欠乏している背景下、アジア・太平洋諸国は敢えて天下に先んじる勇気を奮い、発展・イノベーション・成長が連動し、利益が融合した開放型経済発展方式の確立を推進しなければならない。このようにしてこそ、「窮しても道は開ける」のであり、世界経済の回復においてアジア・太平洋経済の牽引作用を発揮させることができるのである。

中国は正にこのような努力を進めているところである。上半期、中国経済は前年同期比で7.6%成長した。これは以前の8%以上の成長に比べれば、確かにある程度鈍化している。一部の友人は中国経済の先行きを心配しており、「中国経済はハードランディングになるのではないか？」「中国経済は持続的で健全な発展ができるのか？」「中国はいかに対応するのか？」「中国経済情勢は、アジア・太平洋にどのような影響をもたらすのか？」といった疑問を提起する人もいる。これに対し、私はいくつかの考えを述べてみたい。

まず、私が強調したいのは、各方面の状況を総合的に分析すると、**中国経済の発展の先行きについて私は自信に満ち溢れている**<sup>1</sup>ということである。

---

<sup>1</sup> ゴチックは筆者。

**(1) この自信は、中国経済の成長率が合理的区間・予期目標内にあることに由来する**

中国経済の成長率は、以前の 2 桁成長から 2011 年の 9.3%、2012 年の 7.8%に至り、さらに今年上半期の 7.6%に至っており、総体として平穏な推移を実現している。7.6%の成長は、世界の主要国の上位に名を連ねている。

中国経済のファンダメンタルズは良好であり、経済成長及びその他主要経済指標は予期目標内に維持されている。全ては想定内であり、何も意外な事は発生していない。

**(2) この自信は、中国経済の発展の質・効率が徐々に高まっていることに由来する**

今年上半期、中国経済の発展の特徴は、総体として平穏であり、安定の中で前進をみたということである。「安定」とは、経済成長が合理的区間にあるとことを指し、「前進」とは、経済発展方式の転換の歩みが加速していることを指す。

中国経済の発展は、正にこれまでの過度な投資・輸出の牽引への依存から、内需とりわけ消費需要の牽引への依存に転換している。上半期の経済データからすると、構造調整の牽引作用が顕在化している。内需は経済成長を 7.5 ポイント牽引しており、このうち消費は 3.4 ポイント牽引している。

我々はもはや単純に GDP 成長率を英雄視するのではなく、経済成長の質・効率向上を立脚点とすることを強調している。事実が証明することは、この政策について我々は中国自身に対してのみならず、世界に対しても責任を負っているということである。

**(3) この自信は、中国経済の強靱な内生動力に由来する**

中国経済の発展の内生的動力は正に不断に増加しており、引き続き増強されるだろう。

引き続き進行する都市化は、数億単位の中国人を農村から都市に向かわせ、更に高水準の生活に向かわせるために新たな余地を創造するものである。

中国の教育水準は不断に向上しており、新世代の労働者は、素質がより高く、視野がより広く、技能がより優れた現代化・専門化された人材に成長する。

中国はイノベーションによる発展駆動戦略の実施に力を入れており、科学技術と経済の緊密な結合を推進し、科学技術イノベーションと新興産業の発展を推進する。

中国が不断に開拓している内需・消費市場は、巨大な需要と消費動力を発揮する。

中国は人間本位の理念を堅持し、発展の成果を更に広範な地域・民衆に及ぼす。

これらはいずれも、中国経済の発展を推進する強靱な内生的動力に転化することになるだろう。

**(4) この自信は、アジア・太平洋の発展の良好な見通しに由来する**

アジア・太平洋各国の共同の努力の下、アジア・太平洋地域の資金・情報・人員の流動は既にハイレベルに達しており、産業の分業は日増しに明瞭となり、アジア・太平洋市場は初めて輪郭が備わってきている。

正に熟しつつある新たな科学技術革命と産業革命は、アジア・太平洋地域に優位性を集積するものである。

アジア・太平洋各国はリスク抵抗能力を大いに増強させ、為替レートメカニズムを更に柔軟化させ、外貨準備の水準を顕著に高めており、各種のマルチ・バイの金融の枠組みは複雑な局面に対しメカニズムの保障を提供している。

アジア・太平洋の発展の先行きに中国は自信をもっている。アジア・太平洋の成長の大環境から受益することにより、中国は自身の発展を実現してきたし、同時に自身の発展によりアジア・太平洋経済の成長に貢献してきた。この相互作用の傾向がますます強まることが、アジア・太平洋地域の発展のために更に大きなチャンスを創造すると、私は信じている。

私は中国経済の持続的で健全な発展について、確固とした自信を抱いている。同時に、需要の下降、生産能力の過剰、地方債務、シャドーバンキング等の問題・試練について、私ははっきりとした認識を維持しており、外部環境がもたらす可能性がある衝撃に高度に注意を払い、正に穏当な対応措置を採用して弊害を未然に防いでいる。

## 2. 改革開放の全面深化

中国経済は既に新たな発展段階に入っており、正に深刻な方式の転換と構造調整を進めているところである。これには不断に坂を登り峠を越え、堅塁を攻略し困難を克服しなければならない。これは必然的に調整の陣痛・成長の悩みを伴うが、これらはいずれも払うに値する代償である。

虹は往々にして風雨のあとに現れる。「人より高い山はなく、脚より長い道はない」という名言がある。更に高い山・更に長い道を我々が休むことなく前進すれば、目的に達する日が来るのである。

中国が前進するには、改革開放を全面的に深化させなければならない。人民大衆の新たな期待に対して、我々は改革開放への信念を確固とし、更に大きな政治的勇気・知恵、更に有力な措置・方法によって改革開放を推進し、更に思想を解放し、社会の生産力を解放・発展させ、社会の創造活力を解放・増強しなければならない。

中国は、改革を全面的に深化させる総体案を制定中である。これは総体として、経済・政治・文化・生態文明建設等の分野の改革を統一的に企画し、発展プロセスで出現する難題の解決に努力し、経済の持続的で健全な発展に対する体制メカニズムの障害を除去し、改革を通じて経済発展のために新たな動力を添加するものでなければならない。

我々は基本経済制度を整備し、市場システムの建設を強化し、マクロ・コントロール、

財政・税制、金融、投資分野の体制改革を推進する。金利・為替レートの市場化改革を深化させ、人民元レートの弾力性を増強し、人民元資本項目の兌換化を段階的に実現する。

我々は行政体制改革を推進し、機能をさらに転換し、政府を簡素化し権限を開放する。政府と市場の関係を調整し、資源配分における市場の基礎的役割を更に大きな程度・広範囲に発揮させる。

我々は科学技術体制を健全化し、科学技術のイノベーション能力を高め、企業を主体とし、市場を導きとし、産・学・研究機関が結びついた技術イノベーション体系の構築に力を入れる。

我々は民生の保障・改善を重点とし、社会の公正・正義を促進し、更に質の高い就業実現を促進し、所得分配制度改革を深化させ、健全な社会保障体系と基本公共サービス体系を整備する。

我々は生態環境保護を強化し、資源節約をしっかりと推進し、人民のために良好な生産生活環境を創造し、地球気候変動に対応するため新たな貢献を行う。

我々は更に積極・主動的な開放戦略を実行し、互惠・Win-Win で多元的にバランスのとれた安全で効率の高い開放型経済システムを整備する。沿海・内陸・縁辺の開放優位性の相互補完を促進し、国際的な協力・競争を導く開放地域を形成し、地域の発展を牽引する開放先進地区を育成する。

輸出・輸入を共に重視することを堅持し、対外貿易のバランスのとれた発展を推進する。「導入」と「海外進出」を共に重視することを堅持し、国際投資の協力水準を高める。投資・貿易に関わる体制改革を深化させ、法律・法規を整備し、中国に進出した各国企業のために公平な経営の法治環境を創造する。

我々はバイ・マルチ・地域の順に地域開放協力を統一的に企画し、FTA 戦略の実施を加速し、周辺国家との相互交流を推進する。

我々は、改革は深刻な革命であり、重大な利益関係の調整に波及し、各方面の体制メカニズムの整備に波及することを認識している。

中国の改革は既に堅塁攻略の時期・深水区域に入っている。このため、現在改革により解決が必要な問題はとりわけ非常に困難であり、全てが難題である。この時期には勇気を奮い起こして前進しなければならず、あれこれ気にかけてためらい恐ろしくて前に進めないようであれば、前進できないばかりかこれまでの功績が水泡に帰することになる。

中国は大国であり、根本的な問題において転覆するような誤りを決しておかしてはならない。一旦誤りをおかせば、挽回しようもないし補いようもない。

我々の立場は、胆力は大きく歩みは穏やかでなければならず、大胆に模索し勇気をもって開拓するのみならず、穏当・周到・慎重に、熟慮して事を運ばなければならないという

ものである。

我々は改革開放という正確な方向を堅持し、敢えて難題に取り組み、敢えて早瀬を渡り、敢えて長年累積した治療の難しい瘴気・持病にメスを入れ、確実に改革を停滞させず開放の歩みを止めることがないようにしなければならない。

### 3. 解説

この演説の目的は、①世界に広がっている中国経済のハードランディング、金融リスク顕在化への懸念を払拭すること、②改革開放の全面深化に関する決意を内外に示すこと、であったと考えられる。

前者については、7月以降主要経済指標が改善し、7-9月期の成長率が好転する可能性が高まり、年間7.5%の成長率目標が射程距離に入ってきたことが背景にあらう。大きな景気刺激策を打ち出すことなく、経済の下降に歯止めをかけることができたことが、一定の自信につながっているものとみられる。

後者については、7月23日に武漢で行った改革開放の全面深化のための地方座談会における習近平総書記の演説に比べ、改革実施へのトーンが強まっていることが指摘できよう。

この背景としては、次のことが考えられる。

第1に、党3中全会での決議案について、党内部の調整がかなり進んでいるのであらう。7月の時点では北戴河会議がまだ終わっておらず、薄熙来裁判も進行中であつたことから、習総書記は党長老・保守派・左派を不必要に刺激する発言を控えていたものと考えられる。

むしろ筆者が注目しているのは、9月の政治局常務委員の動きである。9月23-25日、習総書記は河北省に赴き、專題民主生活会に出席した。この專題民主生活会は、形式主義・官僚主義・享楽主義・贅沢の気風に自らが染まっていないか、党幹部が自己批判・相互批判するものであり、中国共産党ではよく見られる活動である。

ただ注目すべきは、習総書記以外の政治局常務委員が手分けして、同時期に各地に赴いていることである。李克強は広西チワン族自治区、張徳江は江蘇省、俞正声は甘肅省、劉雲山は浙江省、王岐山は黒竜江省、張高麗は四川省に行っている。おそらくこれは專題民主生活会に出席するとともに、党3中全会決議案の最終的根回し・趣旨徹底の意味合いがあつたものと思われる。おそらく、地方幹部は改革開放の全面深化に対する決意もこの場で表明させられたのではないか。この活動が終了したことにより、習総書記は改革開放の全面深化への自信を深めたものと思われる。

第2に、改革開放の全面深化を国際公約としてしまうことにより、反対論・慎重論を封じ込める意味合いもあらう。改革は現在大きな岩盤にぶつかっており、おそらく外圧なしには、更なる進展は難しくなっているものと思われる。

いずれにせよ、11月の党3中全会では、ある程度踏み込んだ改革開放の全面深化に関する提案が出てくるものと思われ、その内容が注目される。

(10月9日記)